

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 19年6月－4-6月期の外需 寄与度は前期比▲0.5%程度のマイナスに

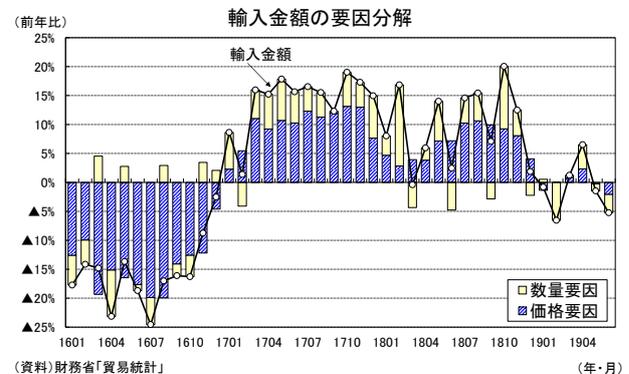
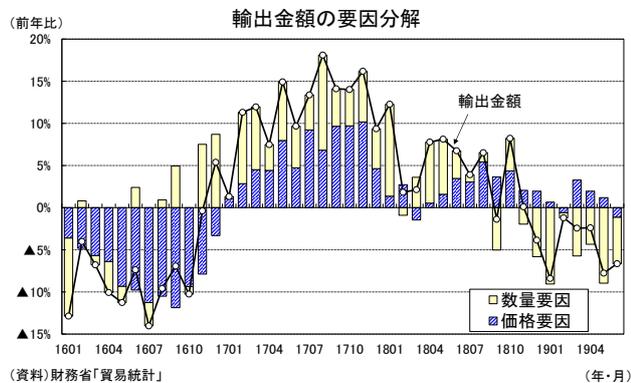
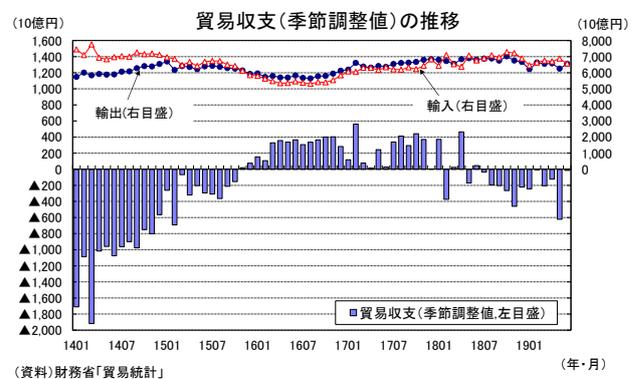
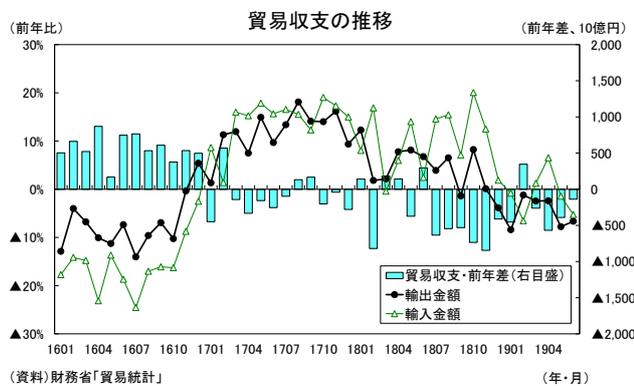
経済研究部 主席研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の減少が続く

財務省が7月18日に公表した貿易統計によると、19年6月の貿易収支は5,895億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：4,200億円、当社予想は2,878億円）を上回る結果となった。輸出が前年比▲6.7%（5月：同▲7.8%）と7ヵ月連続の減少、輸入が前年比▲5.2%（5月：同▲1.5%）と2ヵ月連続の減少となったが、輸出の減少幅が輸入の減少幅を上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲1,383億円の悪化となった。

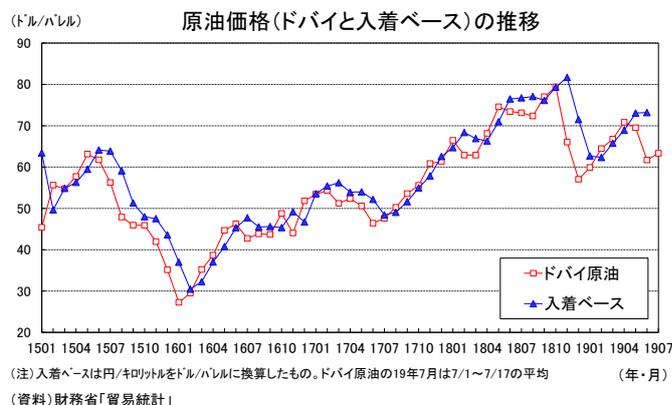
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲5.5%（5月：同▲8.9%）、輸出価格が前年比▲1.2%（5月：同1.2%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲3.2%（5月：同▲1.2%）、輸入価格が前年比▲2.1%（5月：同▲0.3%）であった。



季節調整値の貿易収支は▲144億円と12ヵ月連続の赤字となったが、5月の▲6,215億円から赤

字幅が大きく縮小した。輸出が前月比 4.8%と 2 ヶ月ぶりの増加となる一方、輸入が前月比▲4.4%の減少となった。

6月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=73.2ドル（当研究所による試算値）と5月の73.1ドルとほぼ同水準だった。足もとの原油価格（ドバイ）は60ドル前半となっており、通関ベースの原油価格は7月には60ドル台まで下落することが見込まれる。原油安による輸入金額の減少により貿易収支（季節調整値）は7月以降黒字に転じる可能性があるが、輸出の低迷が続くことが予想されるため、貿易黒字が定着するまでには至らないだろう。



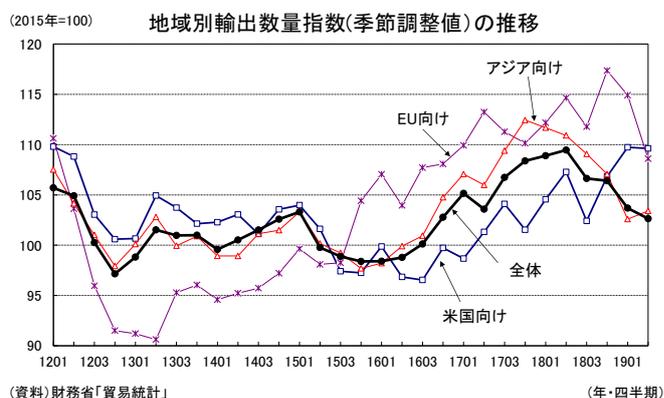
2. EU 向け輸出の減少幅が拡大

19年6月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 2.9%（5月：同▲1.0%）、EU向けが前年比▲4.5%（5月：同▲8.0%）、アジア向けが前年比▲5.3%（5月：同▲11.8%）となった。

4-6月期の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲0.1%（1-3月期：同 2.7%）、EU向けが前期比▲5.5%（1-3月期：同▲2.1%）、アジア向けが前期比 0.8%（1-3月期：同▲4.2%）、全体では前期比▲1.0%（1-3月期：同▲2.5%）となった。

米国向けは3四半期ぶりのマイナスとなったが、18年度後半の大幅増加の後としては堅調を維持している。一方、EU向けは製造業を中心とした景気減速を受けて減少ペースが加速し、アジア向けは6四半期ぶりのプラスとなったものの、1-3月期の大幅な落ち込みの後としては戻りが弱い。中国経済の減速が鮮明となっていることを踏まえれば、アジア向けの輸出が底打ちしたとの判断は尚早だろう。

一方、4-6月期の輸入数量指数は、1-3月期の大幅な落ち込みの反動もあり、前期比 0.3%（1-3月：同▲2.8%）と2四半期ぶりに上昇した。



3. 4-6 月期の外需寄与度は▲0.5%程度のマイナスに

6月までの貿易統計と5月までの国際収支統計の結果を踏まえて、19年4-6月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比 0.5%程度の増加、輸入が前期比 3%程度の増加となった。輸出の低迷が続く一方、輸入が大幅に増加することにより、4-6月期の外需寄与度は前期比▲0.5%（1-3月期：同 0.4%）と2四半期ぶりのマイナスとなることが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保障するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。